

3年〇組 道徳学習指導案

平成 年 月 日 () 第 時限 3の 教室 授業者

1 主題名 ことばのもつ力について考えよう「B-⑧礼儀」

資料名 「ことばのまほう」 出典「明るい心」

2 立案の立場

(1) 児童の実態

本学級は、元気がよく明るい雰囲気を感じられる。しかし、エネルギーがあふれる余り、友達に思いの伝え方を間違ったり、自分の気持ち次第で友達に接し方が異なったり、相手に嫌な思いをさせトラブルになってしまうことが多い。また、自分が発言した言葉が原因と気付くこともなく、なぜ相手が怒っているか分からず、トラブルが解決しないことも多い。相手の気持ちを考えながら会話できる児童が少ないと感じる。

(2) ねらいとする道徳的価値

円滑でよりよい人間関係を築きながら社会生活を営んでいくためには、礼儀正しくふるまうことは非常に大切である。しかし、日常生活の中ではちょっとした言葉や態度の行き違いから、互いに傷つけて気まずい関係になってしまうことも起こりがちである。毎日の生活の中で、相手を思いやる気持ちを大切に、誰に対しても優しい言葉遣いやふるまいができる力を身につけさせたい。

(3) 資料について

本資料は、対照的な二つの場面から構成されている。一つはゲームソフトを買いに行った「ぼく」がぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきたという場面。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見せることができた場面である。これらは児童が日常的に体験しやすい出来事であるので、資料を通し、相手の気持ちになった言葉づかいや行動とはどういうものかを考えさせ、自分自身の言葉遣いについて振り返らせたい。

3 本時について

(1) 現職教育の主題と本時のかかわり

本校の現職教育の目標は「話す力・聴く力を高め、心つながる授業づくり」である。話す言葉によって、心がつながったり、時にはつながりが途切れてしまったりすると考える。自分の言葉によって、気持ちが豊かになったり、寂しくなったりすることを捉えさせ、自分自身の言葉づかいや人間関係を振り返る機会としたい。

(2) 具体的な支援の手だて

◇価値を高められる発問

場面ごとの主人公の気持ちを問うのではなく、ねらいとする価値を高められるような発問を設定する。本時は、主人公が相手にどんな言葉を投げかけ、どんな人間関係になってしまったのか、言葉のもつ力についてじっくりと考え、話し合いを深められるようにしたい。

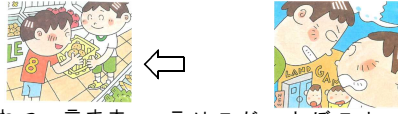
4 本時の展開

(1) ねらい

対照的な二つの場面から構成される会話についての話し合いを通して、相手に対する言葉づかいやふるまいを大切にし気をつけていこうとする態度や実践意欲を育てる。

(2) 板書計画

<p>「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。</p>	<p>「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。</p>	<p>「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。</p>	<p>「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。</p>
---	---	---	---



ことばのまほう
めあて
言葉のもつ力について考えよう

「いったいなあ、よく前を見ろよ。このあわてんぼー!」
「なに言ってるんだ。おまえがとひこんでくるのがいけないんだろ。」
「言い返しました。」
「あっ、ごめんね。本当にごめんね。」
「すぐ、すまなそうに言った。」
「いいんだよ。ぼくもつとしていた。ぼくもわるいんだ。ひろつてくれて、ありがとう。」
「にっこりとわらいました。」

「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。

「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。

「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。

「ぼくは、ゲームソフトを買いに行った。ところが、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきた。もう一つは、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね。」と言われ、互いににっこりと笑顔を見ることができた場面である。

(3) 過 程

主な学習活動と予想される児童の反応	形態	指導・支援 【評価】
1 ふだん、友達に対してどんな言葉で話しているか振り返る。 ・楽しいとき ・怒ったとき ・悲しいとき <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ことばのもつ力について考えよう </div>	一斉 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいとき、怒ったときなど色々な場面での言葉の使い方について思い出すよう声を掛ける。
2 資料の内容を聞く。 3 資料について話し合う。 (1) 主人公の心の変化について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 〈中心発問〉 「ぼくはそのえがおを見たときたんはっとしました」とありますが、ぼくは、どうしてはっとしたのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼんやりしていたぼくが悪かったのに、あやまってくれた。 ・本当は怒りたかったけど・・・でも、怒る気になれないな。 ・さっきはいきなり怒鳴ってしまったからけんかになったのかもしれないな。 ・ぼくがいけなかったのかもしれない。 (2) ぼくが思わずにっこりした理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい言葉を言ってもらえたから、ぼくもやさしい気持ちになれたのかな。 ・「ありがとう」って言ったら笑ってくれたな。 ・言葉もだけど、笑顔も返ってくるのかもしれないな。 (3) 金子みすゞ「こだまでしょうか」を聞く。	全体 5分 全体 グループ 5分 全体 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちが伝わるよう会話文は特に強調して、挿絵を提示しながら語る。 ・考えが思いついた児童から起立するよう促す。 ・考えがまとまらない児童には、二枚目の挿絵と三枚目の挿絵の主人公の表情の違いに着目するよう声をかける。 ・一通り意見が出たら、友達の意見で疑問をもったものに対して質問したり、付け加えたりする時間を設け話し合いが深まるようにする。 ・言葉が相手に与える影響について考える。 ・言葉だけではなく、表情も相手に伝わるものであることにも触れる。 <p>【言葉のもつ力について自分の考えをもち、話し合いに参加することができたか。(観察)】</p>
5 本時を振り返り、感想を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達に嫌なことを言ったら、それがそのまま返ってくるし、いいことを言ったらいいことが返ってくるなと思いました。 ・これからは、友達に嫌な言葉を言わないように気をつけようと思いました。 	個別 7分 全体 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活と向き合い、素直な気持ちを書けばよいことを伝える。 ・考えが浮かばない児童には、いいなと思った意見を挙げてその理由を書くよう伝える。

(4) 評 価

対照的な二つの場面から構成される会話についての話し合いを通して、相手に対する言葉づかいやふるまいを大切にしながらという気持ちが高まったか。

